

テキスタイルケア協会代表が 日本人初のCINET生涯賞を受賞 CINETライフタイム・アワード 2020

世界36か国のクリーニング事業者が加盟する CINET 国際テキスタイルケア連盟 TheInternational Committee of Textile Care(本部：オランダ) が選考する Life Time Award 2020年度（2年間で世界から一人）を、日本の一般社団法人日本テキスタイルケア協会代表理事の住連木政司（しめのきまさし）氏に授与することを決定したと発表した。



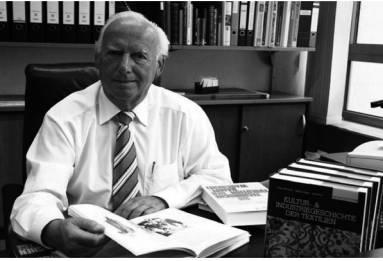
CINETは、2005年にドイツ、フランス、イギリスなどの西欧諸国によって創設されたクリーニング業界の国際的なアンブレラ組織だ。アンブレラ組織とは、世界各国を代表するクリーニング団体が加盟して構成されたもの。

“Life Time Award”は2016年に創設されたもので、「生涯を通してテキスタイルケア、クリーニング産業界に貢献したことを顕彰する」というものだ。2年に1回世界から一人が選出されるもので、今まで二人が表彰されている。

第1回は2016年、世界の産業界の技術・研究において指導的な役割を果たしたドイツ国立ホーヘンシュタイン研究所のクルツ博士、2018年第2回は リネンサプライブランドメーカーとして先進技術を提供し続けているドイツのカネギーサーの マーチン・カネギーサー氏、と錚々たるメンバーに続いてということになる。ヨーロッパ、中国、韓国での国際的な講演や執筆活動、プロフェッショナル・テキスタイルケアについての世界への提唱を評価されたもの。

歴代の錚々たる受賞者

第1回受賞者のクルツ博士は、ドイツ国立ホーヘンシュタイン研究所で永年クリーニングに関する研究を続け、世界にその成果を提供した功績を顕彰された。ドイツ国立ホーヘンシュタイン研究所は、1946年に Dr.-Ing 教授によって繊維学校として設立された。テキスタイル製品のテスト、認証、開発にあわせて、その品質維持のためのクリーニングの科学研究を行っている。



◀2016年受賞のクルツ博士（ウィキペディアより）

第2回受賞者のマーチン・カネギーサー氏は、父親であるハーバートが1948年に創業したカネギーサー社を、1974年に経営者として引き継ぎ、世界最大規模の産業クリーニング設備メーカーへと成長させた。



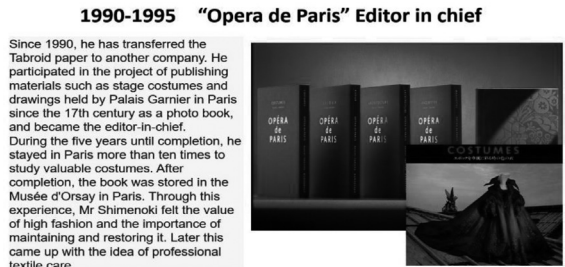
◀2018年授賞式でのカネギーサー氏

住連木氏の業績

住連木氏は1984年、社会問題になっていたドライクリーニングの消費者トラブルに注目し、当時拡大していた新しい繊維素材やファッション加工に関する知識を、消費者とクリーニング産業界に周知することを目的として、“The After”というタブロイド判の衣生活情報新聞を創刊した。その後、急激に拡大したファッションの多様化に対応するため繊維知識を研修する組織として、繊維商品めんとなんす研究会の設立発起人として創設し、自身も2005-2014の間、専任講師を務めた。



1990年からは、パリのオペラガルニエが所蔵する17世紀以来の舞台衣装、デッサン等の資料を写真集として出版する事業に参加し、完成までの5年間、10数回パリに滞在して、貴重なコスチュームを研究した。この経験によって、ハイファッションの価値とその維持復元の重要性を感じ、後にプロフェッショナル・テキスタイルケアの発想にいたった。



また東京都立産業技術センターの協力を得ながら、約1000件のクリーニング事故を解析した。そしてそのほとんどが標準的なクリーニング工程とは異なる繊維知識と技術を用いれば事故にならないことに注目し、一般クリーニングとは区別するプロフェッショナル・テキスタイルケア業の創業を提唱するようになった。一般クリーニングと区別しなければ、個別対応による処理に対する作業が正当な対価を得られないと考えたからだ。

また、一方でハイファッションをサポートする事業に取り組んだ。繊維製品品質管理士の資格を取得し、この有資格者に呼びかけて、アパレル企業の専門的な消費者対応業務を行う株式会社品質情報センターを1997年設立した。契約企業は、マックスマラ・ジャパンなどのブランド企業であった。また、エトロやジョルジオアルマーニの従業員に向けた繊維素材とドライクリーニングに関する関係性の講義を行った。



2012年には、約130社のクリーニング企業が参加して一般社団法人日本テキスタイルケア協会を創設し、代表理事としてテキスタイルケア業の創業に取り組んだ。同協会の運営するデータベースでは、クリーニング事故事例原因解析事例、海外情報、研究レポートなどが収録されており、会員はこれらを自由に検索したり複写して利用できる。また全国の47の消費者センターも利用している。また、クリスチャンディオールなどから講師を招へいして最新ファッション情報に関する研修会を開催。プロフェッショナル・テキスタイルケアのビジネスモデルを検討するシンポジウムを開催している。2015年、高度な技術を要する整形プレスと復元のための染色は、衛生を目的とするクリーニング作業に含まれないことを経済産業大臣に照会し、このことを認めさせた。このことは、政府の公式見解として発表された。



これは、住連木氏が、将来コインランドリーや家庭洗濯のイノベーションによって一般衣料のクリーニング需要は確実に衰退すると思われるとし、PTCを従来のドライクリーニングとは区別される高付加価値ビジネスとして社会に認知してもらうためである。

2001年にブリュッセルの CINET本部を訪問。2009年北京、2010年ダブリン、2015年上海などで講演を行い、2016年よりCINET-GBPA創設以来国際審査員を務めている。

中国洗染専門委員会の招へい研究員に任命され、韓国においては、2010年から3年間、年間5回の定期研修講座を開催した。講義受講者を中心にして、韓国テキスタイルケア協会の創設に寄与した。



著書は、中国、韓国で翻訳出版されているほか、11月には世界発売に向け英語版の“knowledge of Fashion Care” が出版される。

